

報道関係各位

SBI ホールディングスとスターテイル、Open Standard に参画

円建てステーブルコイン「JPYSC」と米ドル建てステーブルコイン
「Open USD（OUSD）」の相互運用に向け、実証実験を検討



SBI ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役会長兼社長：北尾吉孝、以下「SBI」）及び Startale Group Pte. Ltd.（本社：シンガポール、CEO：渡辺創太、以下「スターテイル」）は、Visa、Stripe、Mastercard、BlackRock、Coinbase など 140 社を超える企業が参加し、米ドル建てステーブルコイン「Open USD（OUSD）」の提供・普及を推進する「Open Standard」に参画したことをお知らせいたします。

あわせて両社は、SBI 新生信託銀行株式会社が発行する円建て信託型ステーブルコイン「JPYSC」と OUSD の相互運用に向けた実証実験を検討しています。OUSD のオンチェーンでの公開を踏まえ、円・米ドル間の決済の迅速化・効率化を目指します。

■ 背景

近年、米国における GENIUS 法の成立などを背景に、ステーブルコインを活用した資金決済を含むオンチェーン金融インフラの整備が急速に進んでいます。こうした中、2026 年 6 月には、世界の金融・決済・テクノロジー分野を代表する 140 社を超える企業が参加し、米ドル建てステーブルコイン「Open USD (OUSD)」を共通の決済基盤として発展させる取り組み「Open Standard」が発表されました。

SBI グループとスターテイルも、オンチェーン金融の実用化に向けた取り組みを進めています。2026 年 7 月には、SBI グローバルアセットマネジメント株式会社、DigiFT Tech Pte. Ltd.およびスターテイルが、JPYSC の将来的な活用を見据え、トークン化証券の決済および分配金支払いに関するテストネット PoC（技術検証）を発表しました。また、スターテイルは、JPYSC の活用拡大に加え、機関投資家向け取引基盤の開発など、決済にとどまらないオンチェーン金融の実用化を進めています。

こうした取り組みと Open Standard の構想を踏まえ、SBI とスターテイルは、JPYSC と OUSD の相互運用性の向上が、円・米ドル間の決済の効率化や、幅広いオンチェーン金融領域におけるステーブルコインの活用拡大に資すると考えています。OUSD のオンチェーンでの公開を受け、その実現に向けた具体的な取り組みを検討してまいります。

※ 本発表は実証実験の検討に関するものであり、新たなサービスの提供や本番環境における決済・取引の開始を意味するものではありません。

■Open Standard および Open USD (OUSD) について

Open Standard は、米ドル建てステーブルコイン「Open USD (OUSD)」を手がける企業です。インターネット上での利用を前提としたデジタルマネーの実現を目指し、企業がより低コストかつ迅速に、国境を越えて資金を移動できる環境づくりに取り組んでいます。200 を超える金融機関やフィンテック企業、グローバル企業が、自社プラットフォームへの OUSD の導入に向けて参画しています。手数料の低さに加え、参加企業への収益還元や、各社の意見を運営に反映する仕組みを特徴としています。

Open Standard は 2026 年に設立され、Coinbase、Mastercard、Shopify、Stripe、Visa が創設パートナーとして参画しています。

■ JPYSC について

JPYSC は、SBI 新生信託銀行株式会社が発行する円建ての信託型ステーブルコインです。日本の資金決済法及び信託法制に基づき設計され、オンチェーン上における円建ての決済・資金移転・分配の基盤として、トークン化資産の取引やクロスボーダー決済などへの活用を見据えています。

■ 今後の展望

SBI とスターテイルは、Open Standard への参画を通じて、JPYSC とグローバルなステーブルコインインフラとの連携の可能性を検討し、円建て資産の国際的な流動性向上に貢献することを目指します。両社は今後も、Open Standard のパートナー企業との連携を深め、関係法令等を踏まえながら、国際的な相互運用性を備えた、安全で信頼性の高いステーブルコインエコシステムの発展に取り組んでまいります。

■ 関係者コメント

【SBI ホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長 北尾 吉孝】

オンチェーン金融の世界では、グローバルな取引が益々盛んになります。SBI グループは『SBI APAC デジタル経済圏』の構築を目指しており、国境や通貨の壁を越えた取引の実現はその核心をなすものと考えています。中でも、円建てステーブルコインと米ドル建てステーブルコインとの円滑な交換可能性を確保することは不可欠であり、この度の Open Standard への参画および OUSD と JPYSC の相互運用に向けた実証実験の検討は、その実現に向けた重要な一歩となります。SBI グループは、米ドル建てステーブルコインである USDC および RLUSD を国内で初めて取扱うなど、今後も国内外の有力パートナーとの連携を通じて、デジタルアセットの普及・拡大に努めてまいります。

【Startale Group Pte. Ltd. CEO 渡辺 創太】

今回の Open Standard への参画を通じて、JPYSC と OUSD の相互運用に向けた実証実験を検討する機会を得られたことを、意義深く捉えています。円建ての JPYSC と米ドル建ての OUSD をオンチェーン上で円滑に交換・活用できる環境が広がれば、円・米ドル間の決済の効率化に加え、幅広い金融サービスへの活用につながると期待しています。SBI グループおよび Open Standard のパートナー企業と連携し、具体的なユースケースの検討を通じて、日本の資産や金融サービスをグローバルなオンチェーン市場につなぐ取り組みを進めてまいります。

■ 会社概要

【SBI ホールディングス株式会社】

所在地	東京都港区六本木一丁目 6 番 1 号 泉ガーデンタワー
代表者	代表取締役会長兼社長 北尾 吉孝
事業内容	株式等の保有を通じた企業グループの統括・運営等
URL	https://www.sbigroup.co.jp/

【Startale Group Pte. Ltd.】

所在地	105 CECIL STREET, #24-02, THE OCTAGON, SINGAPORE
代表者	CEO 渡辺 創太
事業内容	ブロックチェーンインフラ、オンチェーンアプリケーション、 Web3 関連プロダクトの開発・提供
URL	https://startale.com/

■ 本リリースに関するお問い合わせ先

SBI ホールディングス株式会社

コーポレート・コミュニケーション部

03-6229-0126

Startale Group Pte. Ltd.

広報担当

marketing@startale.com

以上